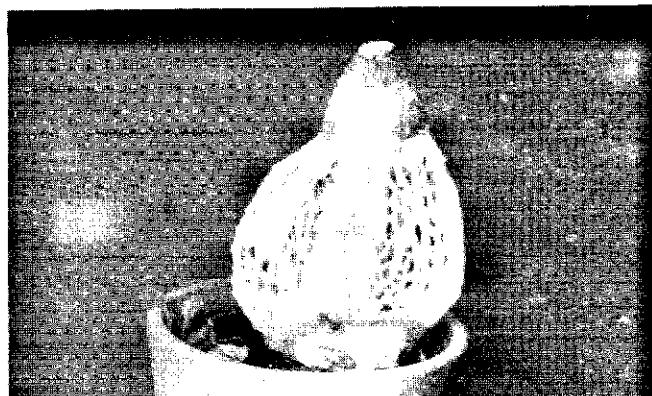


キヌガサタケの記録 腹野文男

県立中央博物館で所蔵する1835年に刊行された坂本浩然の菌譜を見るとキヌガサタケの項に「虚無僧ダケ 仙人帽キヌガサソウ（京都方言）又シケダケ」として記載と図が載っていたが、キヌガサタケは19世紀になってはじめて日本の本草書に記載が見られるようである。大正15年（1926）2月に発行された植物研究雑誌第3巻第2号に「支那料理ニ用イラル珍菌（竹孫）」という題で川村清一博士が書いておられるが、キヌガサタケは中華料理の食材としても竹孫（ツースン）の名で重用されている。もうだいぶ前になるが千葉市にあった中華料理店銀座アスターの季刊誌1987Vo.14新春第8号の表紙にキヌガサタケの美しい写真が載っていた。それを見ていつかぜひ試食したいと思っていたが、高級料理に出てくるせいか残念ながら未だに味わう機会を得ないでいる。

千葉県の発生記録

千葉県菌類誌（1）（1995）*に今まで千葉県に発生したキノコの目録がある。キヌガサタケの項を見ると関宿町（毎日新聞）1993としてある。これは1993年9月1日（水）の毎日新聞に「珍種のキノコふ化関宿町の竹林で・県内では10年ぶりひょっこりキヌガサタケ」という見出で東葛飾郡関宿町桐ヶ作の同町職員上原繁さん方の裏山の竹林内に発生したという記事から目録に載ったものである。



県内に発生したキヌガサタケを見たという方は他にいるかもしれないが今のところ県立中央博物館に持参する方もないで県内産キヌガサタケの標本は欠けたままになっている。

我が家に所蔵するキヌガサタケの記録

我が家に所蔵する資料の中に昭和28年（1953）にはじめてキヌガサタケを観察したときの記録があった。

昭和28年（1953）8月30日、近所のパン屋さんの志田作平氏が佐原市山之辺へキノコ狩りにいって竹藪の中でヘビの卵みたいなものを見つけたといって、それを我が家へ持ち込んできた。これは何だろうと聞かれたので、形は卵形だがどうもキノコの幼菌のように思うと言うと、それじゃしばらく植木鉢の中において様子を見ようということになった。それから1日が経過したが変化はみられない。2日目の朝、卵の上部の殻が裂開を始め、やがて臭気の強い緑色の頭部の下に純白のレース様のマントが現れた。当時はカラー写真が一般化していないかった時代だったので、早速水彩画とモノクロ写真に撮って記録を取ることにした。そういうしているうちに、レースのマントはすっかり開いてしまった。開き終わるまでの所要時間は3時間位である。川村清一博士の名著「日本菌類図説」によりキヌガサタケであることがわかり、キノコの本体は7%のホルマリン水の入った広口瓶に入れて保管した。その後、家の移転等があって標本は駄目になってしまったが、その時撮影したのが別掲の写真である。その後、キノコの採集に行ったときに竹林があるとよく探してみると、キヌガサタケは見つからず、我が家に所蔵する記録はそのままになっている。

*中央博物館自然誌研究報告特別号2号

写真説明：植木鉢においていた幼菌の殻皮が裂開を始めてから2時間20分が経過（撮影日：1953.9.1）

キヌガサタケ

横山 元

キヌガサタケは1600年代に中国から京都・長岡京にモウソウチクの渡来と共に帰化したという説があります。長岡京周辺にはモウソウチク林が広範囲に分布し6~9月頃、ごく普通にキヌガサタケを観察することができます。

関東地方でもほとんどのキヌガサタケはモウソウチク林に発生していますが、伊藤隆弘さんの話では群馬県吉井町のマダケ林に毎年たくさん生えるとのことです。

1996年7月28日、いつものマダケ林にキヌガサタケが生えたとの知らせをいただき、29日伊藤さ

んの案内でマダケ林のキヌガサタケを観察し写真を撮ることができました。

マダケ林に着いたのが9時頃、さほど広くない竹林斜面にキヌガサタケが10数本、ほぼ全開の状態で見事に発生しておりました。今にも破裂しそうな幼菌のタマゴもたくさんありました。近くのモウソウチクリンにも群生しており肉眼で見る限り同じキヌガサタケと思われます。

埼玉県長瀬町の荒川沿いのマダケ林にもキヌガサタケが発生いたします。日本原産種のマダケ林に発生するようになったキヌガサタケは帰化菌類の知恵なのでしょうか。

(撮影日:1996.8.4 撮影場所:群馬県吉井町)



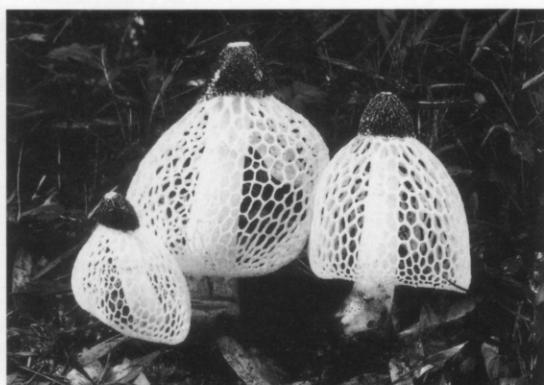
1) A.M6:30 幼菌は赤味を帯びた卵形からスッポンタケ状となりつつ、マントを広げる。



3) A.M7:10 赤味を帯びながら展開していたマントも成長とともに純白になった。



2) A.M6:50 フェルトのように圧縮されていたマントはブツブツと音をたて、バネがはじけるように、振動しながら展開する。



4) A.M7:40 成長をつきると頭部のグレバは暗緑色から黒色に変わり、純白のマントも全開。